

【 復活トロパリ 第6調 】

てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
 天使 軍 爾 墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリヤはか
 番兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
 立 爾 潔 體 尋

たあり。なんぢはぢごくにいざなわれず
 爾 地 獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた賜
 地 獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきいす。
 爾 歸

【 神現祭前期のトロパリ 第4調 】

ゼブルンよおのれをそなえよ、ナフタリよ
 己 備

よろこびいわえ、イオルダンよたのしみお躍
 喜 祝 樂 躍



 ど り て せんを うけんた めに きたるしゆを う
 洗 受 爲 來 主
 け よ 。 ア ダムよ、げんぼ と ともによろこ
 原 母 借 慶
 べ よ 、 かつて らくえんに てせしが ご とく か
 嘗 樂 園 如 隠
 くるる なか れ 、 は だか なる なんぢを みし も
 勿 裸 體 爾 見 者
 の は あらわ れ て 、 なんぢを はじめの ころ
 現 爾 原 初 衣
 も に て おおいた ま わ ん。ハリストス は およ その ぞ
 蔽 給 凡 造
 うぶつを あらたにせんた めに あらわれた 給
 物 新 爲 現 給
 ま え り 。

【 サロフの聖セラフィムのトロパリ 第4調 】



 ふくたるもの よ 、 なんぢは いとけなき
 福 者 爾 幼
 と き よ りハリストス を あ い し 、 か れ ひ と り に
 時 愛 彼 獨
 ねっしんに つとめんことを のぞ お み 、 こうや
 熱 心 勤 望 荒 野

にありてたえざるきとうときんろうとをもってきん
 在 絶 祈 禱 勤 勞 以 勤
 ぎょうし、しょうかんのこころをもってハリストスの
 行 傷 感 心 以
 あいをえ、かみのははにあいせらるるも
 愛 獲 神 母 愛 者
 のとしてえられたり。ゆえにわれらな
 選 故 我 等 爾
 んぢによおぶ、こくしょうなるわがしんぷせ
 呼 お ぶ 克 肖 我 神 父
 ラフィムよ、なんぢのきとうをもってわれらをす
 爾 祈 禱 以 我 等 救
 くいたまえ。
 給

【 復活コンダク 第6調 】

こうえいはちちとこ と せいしんにき
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す、
 いのちのげんいたるハリストスカ み は いのちを
 生 命 原因 神 生 命
 ほどこすてをもってしせしものをくらきた
 施 手 以 死 者 暗 谷

によりいだし、ふくかつをじんるいに
出 復 活 人 類

たまえり、しゅうじんのきゅうせ いしゅ、ふ
賜 衆 人 救 世 主 復

くかつといのち、およびしゅうじんのかみな
活 生 命 及 衆 人 神

ればなあり。

【 神現祭前期のコンダク 第4調 】

いまもいつうもよよに、アミン。
今 何 時 世 世

こんにちしゅはイオルダンのながれのうちにあり
今日 主 流 中 在

てイオアンによびていいう、われにせんをさづ
呼 言 我 洗 授

くことをおそるるなかあれ、けだしわ
畏 勿 蓋 我

れはじめにつくられしアダムをすくわんため
原 初 造 救 爲

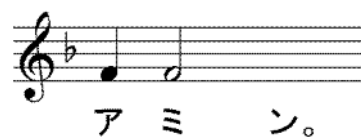
にきたれり。
來

司祭) (黙誦： 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と

ひと なんぢ ぞう しょう よ つく なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す そのすくい ため つうかい
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ とき おい なんぢ せい
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 さいだん こうえい まえ た なんぢ どうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
 しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
 しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ
 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われら こうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ
 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 じょうせいのもよ、われらをあわれめ
 常 生 者 我 等 憐
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 なるじょうせいのもよ、われらをあわれ
 常 生 者 我 等 憐
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。こうえいはちちとことせいしん
 光榮は父と子と聖神
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 歸今何時世世
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
 聖常生者我等を憐
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
 聖神聖勇
 き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 殺聖常生者我等を
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 主日 第6調 及び聖人の 第7調 】

司祭) 慎みて聴くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

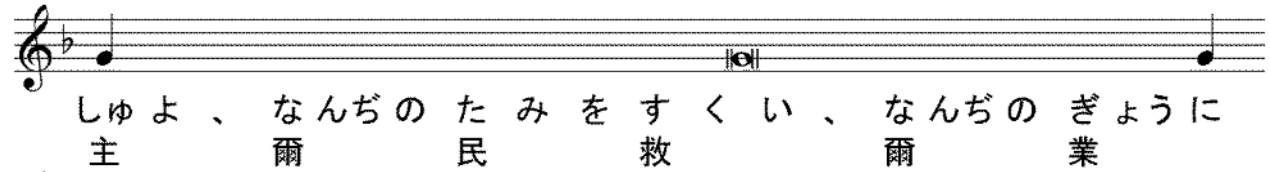
誦經) プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、

しゅよ、なんちのたみをすくい、なんちのぎょうに
 主 爾 民 救 爾 業

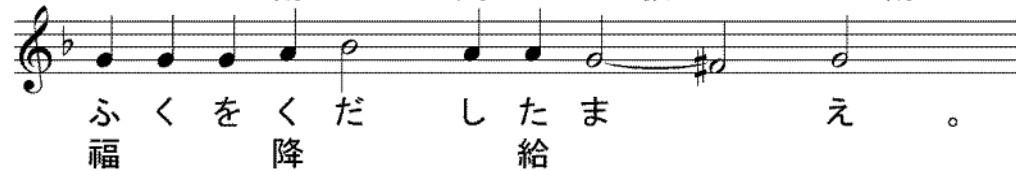


ふくをくだしたまあえ。
福降給

誦經) ^{しゅ われなんぢ よ われ かため わ ため もだ なか}主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が爲に黙す母れ、



しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業

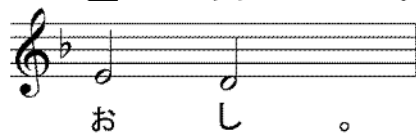


ふくをくだしたまあえ。
福降給

誦經) ^{せいじん し しゅ め まえ とうと}聖人の死は主の目の前に尊し、



せいじんのしはしゅのめのまえにとうと
聖人死主目前尊



おし。

- 【 ^{アポストロス}使徒經 298 端 ティモフェイ後書4章5節~8節
258 端 コロサイ書3章12~16節
213 端 ガラティア書5章22~6章2節 】

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{せいしと たつ こうしょ よみ}聖使徒パウエルがティモフェイに達する後書の讀、

司祭) ^{つつし き}謹みて聽くべし、

誦經) ^{こ なんぢ いつさい こと けいせい くるしみ しの ふくいんしゃ わざ おこな}子ティモフェイよ、爾は一切の事に徹醒し、苦を忍び、福音者の工を行い、

^{なんぢ しょく つく けだしわれすで まつり けん わ ゆ ときいた われよ たたかい}爾の職を盡せ。蓋我已に祭として獻ぜらる、我が逝く時至れり。我善き戦を

^{たたか は みち つく しん まも いま のち ぎ かんむり われ ため そな しゅ}戦い、馳すべき程を盡し、信を守れり。今より後、義の冕は私の爲に備えらる、主、

^{ぎ しんばんしゃ か ひ おい これ われ たま ただわれ すなわちおよ かれ あらわれ}義なる審判者は、彼の日に於て、之を我に賜わん、第我のみならず、乃凡そ彼の顯現

^{した もの たま}を慕う者にも賜わん。

(比較用 口語訳) ティモフェイよ、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであらう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであらう。

【 使徒経 258 端 コロサイ書3章12~16節 】

誦經) 兄弟よ、爾等神の選を蒙りし、聖にして愛せらるる者として、慈悲、仁愛、謙遜、
溫柔、恒忍を衣よ、若し互に責むべき事あらば、相恕し、相赦せ、ハリストスの爾
等を赦しし如く、爾等も此くの如くせよ、凡そ此等の上に愛を衣よ、是れ完備の總綱な
り。且神の平安は爾等の心の中に幸たるべし、爾等は一體に於て之に召された
り、爾等又恩に感ぜよ。ハリストスの言は豊に爾等の中に居るべし、凡の智慧を以
て相誨え、相倣め、聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、恩寵に由りて爾等の心
に和して、主を讚美せよ。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。これらいつさいのものの上に、愛を加えなさい。愛は、すべてを完全に結ぶ帯である。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。

誦經) 兄弟よ、神の果は仁愛、喜悅、平安、恒忍、仁慈、矜恤、信仰、溫柔、節
制なり。此くの如き者には律法なし。凡そハリストスに屬する者は、肉體を其情及び慾
と共に十字架に釘せり。若し我等神に依りて生きば、亦神に依りて行ふべし。虚榮を尚
び、相怒り、相妒む勿るべし。兄弟よ、若し人過に陥らば、爾等屬神の者は、溫柔
の神を以て、之を規し、且自省みるべし、恐らくは爾も亦誘われん。爾等互に

に お か ごと ほう つく
荷を負え、是くの如くしてハリストスの法を盡さん。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。

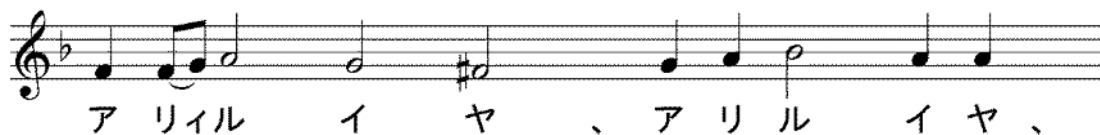
【 アリルイヤ 神現祭前の主日第8調 聖人の第8調 】

司祭) ^{なんぢ へいあん} 爾に平安、

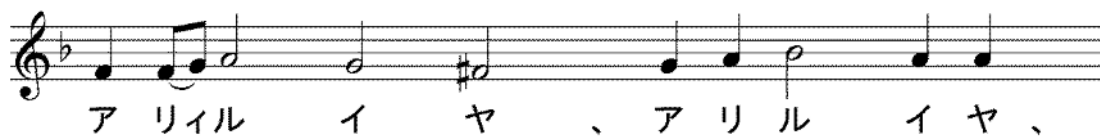
誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

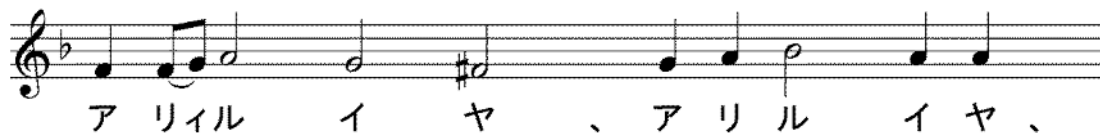
誦經) ^{かみ われら あわれ われら ふく くだ} アリルイヤ、神よ、我等を憐み、我等に福を降せ、

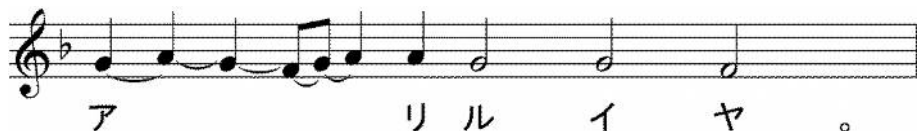


誦經) ^{なんぢ かんばせ もつ われら たら たま} 爾の顔を以て我等を照し給え、



誦經) ^{かみ おそ そのいましめ きわ あい ひと さいわい} 神を畏れ、其誠を極めて愛する人は福なり、





司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ ところ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん}人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の 浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ}の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる 誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ}畏るる 畏をも入れて、我等が 悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ}を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいぜん}爾は我が 靈と體との光 照なり、我等 爾と 爾の無原の父と至聖至善にし

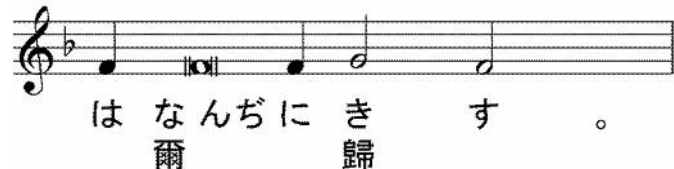
^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ}て生命を 施す 爾の神とに光 榮を獻ず、今も何時も 世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン
福音經 マルコ福音書1 端 1 章1~8 節
ルカ福音書91 端 18 章18~27 節
ルカ福音書24 端 6 章17~23 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん}睿智、 肅みて立て 聖福音經を聴くべし、 衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ}マルコ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き かみ こ ふくいん はじめ しよげんしゃ しる}謹みて聴くべし、 神の子イイスス ハリストスの福音の 始なり。 諸預言者に録されし

^{ごと いわ み われわ つかい なんぢ めんぜん つかわ なんぢ さき なんぢ みち そな}が如し、云く、視よ、我我が使を 爾の面前に遣し、 爾に先だちて、 爾の道を備

^{の よ もの こえあ い しゅ みち そな そのこみち なお の}えしめん。野に呼ぶ者の聲在りて云う、 主の道を備え、 其徑を直くせよと。イオアン野に

^{あ せん さづ つみ ゆるし ため かいがい せんれい つた ぜんちおよ}在りて洗を授け、 罪の赦の爲に悔改の洗禮を傳えたり。イウデヤの全地及びイエルサ

^{ひとびとい かれ つ おのれ つみ みと みな がわ おい かれ せん う}リムの人々出でて、彼に就き、 己の罪を認めて、 皆イオルダン河に於て彼より洗を受け

たり。イオアンは駱駝の毛 衣 を衣、腰に皮の帯を束ね、蝗蟲と野蜜とを食えり。彼宣べ

て曰えり、我の後に更に我より強き者は来る、我屈みて、其履の帯を解くにも堪えず。

我は水を以て爾等に洗を授けたり、彼は聖神を以て爾等に洗を授けん。

(比較用 口語訳) 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。預言者イザヤの書に、「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの道を整えさせるであろう。荒野で呼ばわる者の声がする、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』」と書いてあるように、バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。このヨハネは、らくだの毛ごろもを身にまとい、腰に皮の帯をしめ、いなごと野蜜とを食物としていた。彼は宣べ伝えて言った、「わたしよりも力のあるかたが、あとからおいでになる。わたしはかかんで、そのくつのひもを解く値うちもない。わたしは水でバプテスマを授けたが、このかたは、聖霊によってバプテスマをお授けになるであろう」。

司祭) 彼の時 或 人 イイスに就き、彼を 試みて、問いて曰えり、善なる師よ、我 永遠の生命

を嗣がんに爲に何を爲すべきか。イイス彼に謂えり、爾は何ぞ我を善と稱うる、獨神

より外に善なる者なし。爾は誠を識れり、淫する母れ、殺す母れ、竊む母れ、妄證

する母れ、爾の父母を敬え。彼曰えり、我幼きより皆之を守れり。イイス之を聞き

きて、彼に謂えり、爾に猶一の足らざる事あり、悉く爾の所有を售りて、貧者に

施せ、然らば財を天に有たん、且來りて我に従え。彼之を聞きて、甚憂いた

り、巨に富める故なり。イイス其甚憂いたるを見て曰えり、富を有つ者の神の國に

入るは難き哉。蓋駱駝が針の孔を穿るは、富める者が神の國に入るより易し。之を聞き

し者曰えり、然らば誰か能く救われん。彼曰えり、人には能せざる所、神には能すなり。

(比較用 口語訳) ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましようか」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いましめはあなたの知っているとおりで、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』」。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の國にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神

の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

司祭) 彼の時 イエス 彼等と 偕に 下りて 平地に 立てり、爰に 其衆くの 門徒、及び 衆くの 民、
 イウデヤの 四方 イエルサリム 并 に ティルと シドンとの 海濱よりして、 彼に 聴かん 爲、 且
 己の 病の 醫されん 爲に 來りし 者、又 汚鬼を 患うる 者ありき、 彼等 醫されたり。 衆 民
 彼に 捫らんと 欲せり、 蓋 能 彼より 出でて、 衆を 醫せり。 彼は 目を 擧げて、 其 門徒を
 視て 曰えり、 神の 貧しき 者は 福 なり、 神の 國は 爾等 の 有なれば なり。 今 飢うる 者は
 福 なり、 爾等 飽くを 得んと すれば なり。 今 泣く 者は 福 なり、 爾等 笑うを 得んと す
 れば なり。 人の子 の 爲に 人人 爾等 を 憎み、 爾等 を 絶ち、 且 詬り、 爾等 の 名を 惡し
 き 者として 棄つる 時は、 爾等 福 なり、 其日 に 喜び 樂めよ、 天には 爾等 の 賞 多
 ければ なり、 蓋 彼等 の 先祖 は 是く の 如く 預言 者 に 行 えり。

(比較用 口語訳) そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた靈に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りるようになるからである。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預言者たちに対して同じことをしたのである。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 し 光 榮
 はなんぢにきす。
 爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ